

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501107		
法人名	社会福祉法人 室蘭天照福祉会		
事業所名	グループホームフォレスト柏木 かえでユニット		
所在地	室蘭市柏木町45番10号		
自己評価作成日	令和3年1月7日	評価結果市町村受理日	令和3年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が喜んで頂ける様、行事や中レク(毎月の書道教室と絵手紙教室)等、家族の方に変わり、各入居者の方への支援を今後も今まで以上に、行い家族の方との協力のもと、支援をしていきたいと思ひます。又、生活する上で、スタッフ協力のもと、入居者の方の笑顔を引き出し、満足して頂ける様、日々の関わりを大事にし、コミュニケーションを交わし、職員の存在が、入居者の方にとって、家族の一部となって頂ける様支援していきたいと思ひます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0173501107-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

室蘭市郊外の高台の住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。敷地が広く、玄関前に木々が林立する庭があり、裏側にはパークゴルフができる広い緑地となっている。鉄筋コンクリート造りながら、木を豊富に使った内装で温かみがあり、居間や居室からは広い裏庭や前庭が望める。ウッドデッキが設置され、天窗や庭に面した窓からの採光もあって自然に触れ合いながら過ごすことができる。室内には家庭的な家具や手作りの装飾、ピアノなどがあり、親しみやすい雰囲気となっている。職員は理念をよく理解し、明るく笑顔で利用者に接している。長く勤める職員が多く、職員間のコミュニケーションも良好である。地域との関係では、法人が町内会運営にも関わり、深い結びつきがある。運営推進会議や避難訓練に多数の住民の参加が得られている。運営推進会議は、時には講師も呼んでテーマに関する話し合いを行っている。管理者は地元の講演や健康体操の講師も引き受けている。医療支援の面では、ほとんどの利用者が協力医による往診を受け、その他の通院も事業所で支援している。看取りについても、ここ数年で数多くの看取りを行い、職員は経験を積んでいる。食事や入浴、外出なども利用者が楽しめるようサービスを提供している。居心地のよい空間の中で、いきいきと過ごすことのできるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえでユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼ミーティングの中で、ホーム長、両ユニットスタッフが、理念を声に出して読み、確認、共有を行っている。事務所に貼り、いつでも再確認できるようにしている。	開設時に作成したケア理念の中で「住み慣れた地域の中で心とむ生活を提供します」という内容を掲げ、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念としている。理念を事務所や共用部分に掲示し、朝礼時に唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回の消防避難訓練では毎年町内会の方に声をかけ参加して頂いていましたが、昨年はコロナ禍の為スタッフのみで行っています。七夕の時は子供達へのお菓子を用意し、地域の町内会の行事に参加していたが、昨年はコロナ禍の為中止。	法人役員が町内会役員をしており、地域との関係が深い。感染症流行前は、お祭りへの参加、ボランティアの来訪、避難訓練への住民参加など交流が活発であり、感染症収束後は再開する予定としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に対して、行ってない。今後、地域の方に認知症を理解して頂くためにも、何か行っていくべきと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為行ってない。	現在は文書開催だが会議を2か月ごとに開催し、市や地域包括支援センター、町内会役員、地域住民、利用者家族などの参加を得て防災や看取り、成年後見人制度、サービス評価などをテーマで話し合っている。議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な時は、判断、指導を仰ぎながらより良い協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に市や地域包括支援センター職員の参加を得ている。管理者が市のグループホーム連絡会の代表や各種の委員を務める関係もあり、行政担当者と連絡が密に取れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全てのスタッフが正しく理解しており、ユニット会議等で再認識を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を2か月ごとに開催しており、今後、会議録の充実を検討している。マニュアルを参考に年2回勉強会を行っているが、勉強会の次第や資料の整理、保管は十分といえない。玄関は日中施錠せず、利用者の出入りがあればセンサー音で分かるようにしている。	勉強会の次第や資料について、後から見やすいよう整理、保管しておくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び全てのスタッフは、常に虐待が見逃される事のないように注意を払い、防止に努めている。またユニット会議等で再認識を行っている。		

グループホーム フォレスト柏木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえでユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び計画作成担当者等、研修等で学ぶ機会を持った職員が今後内部研修などで講師となり教えていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時及び退去時には、インフォームド・コンセントを行う事を常に念頭におき、お互いが不安なく理解・納得できるように、行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に、意見箱を設置いつでも誰でも意見・要望を受け付けています。意見等が寄せられた場合は真摯に受け止め、運営に反映しています。	感染症流行により家族面談を中止しているが、職員が家族に電話し、利用者の様子を伝えている。家族の意見を連絡ノートに記載し、共有している。敬老会やクリスマス会、個別の外食会などで家族と触れ合う機会を作っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回のユニット会議等でスタッフからの意見や提案を聞く機会を作っており、出来る範囲で反映しています。また日常的にもスタッフからの意見の把握に努めています。	毎月ユニット会議を行い、職員間で活発に意見交換している。定期的な職員面談はないが、管理者は夜勤時に個別に職員の話も聞いている。職員は行事や広報、給食、畑の美化などの業務を交代で担当し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自がいつでも就業規則を確認出来るよう事務所に設置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を職員に周知し、参加の機会を確保している。また資格手当を新設し、資格取得への意欲を向上するよう講習会の周知、また職員による試験に対する勉強会の設置を行い援助している。試験を受ける職員に対し休暇を取れるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭市内にはグループホーム連絡会があり、連絡会主催で勉強会や普通救命救急講習等、年間を通して多岐にわたる研修会を行っており、当ホームからも両ユニットから各スタッフが参加し、サービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえでユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人様から要望や不安等について、聞き取れる範囲で確認しております。その後不安な様子が見られた時はその都度お話を聞き安心して入居して頂けるように関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、ご家族様から要望や不安等について、聞き取りを行い確認しております。ご家族の方が心配する事なく入居者様ご自身が安心して暮らしていけるように、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される段階で、必要とされている支援を見極め、不安なく入居して頂けるように、他のサービスも含め対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと入居者の方が対等の立場としながらも年長者として敬う関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者のご家族の方に対しては、共に入居者ご自身を支えていく関係を構築出来る様努めている。ご家族が不安に思っている事を傾聴し、必要な時はアドバイスを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係では継続して行けるように支援に努めている。	感染症流行前は3~4名の利用者に会社の同僚や宗教関係の知人等が来訪していた。個別の外食会では、利用者の馴染みの天丼店、ハンバーグ店、ドーナツ店などに出かけており、感染症収束後は再開を予定している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方が互いに孤立しないよう関わりが持てるように支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえでユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、必要に応じてフォローや随時相談や支援を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時はもちろんではありませんが、入居後も暮らし方への希望や意向について、随時アセスメントを取り把握に努めております。出来る範囲で要望に応え、困難な場合は、ご本人やご家族の方と検討を行っています。	2~3割の利用者が言葉で思いや意向を表現でき、難しい場合は問いかけの反応や家族からの情報で把握している。できることできないことシート(D1、D2シート)を作成しているが、趣味・嗜好の情報は少なく、生活歴情報を把握できていない利用者も見られる。	利用者の趣味や嗜好について、D1、D2シート等を活用し、情報を共有することを期待したい。生活歴情報を把握できていない利用者分の生活歴シート作成を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係各位をはじめ、ご本人やご家族の方から以前の生活歴や生活環境、今日までのサービス利用等について、聞き取りを行ったり日々のケアの中で、その都度確認するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者一人ひとりの方について、随時把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、ご本人様がより良く継続して暮らしていただけるように、スタッフ間で協議を行っております。ご家族様には作成後インフォームド・コンセントを行っています。	介護計画を3~6か月ごとに更新している。モニタリング評価記録表をもとにカンファレンスで意見を集約し、次の計画を作成している。日々の記録は計画目標を意識して番号を記録するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアについて、職員間で共有する個別の個人記録を作成し、下記部分に気づきや意見等の記載欄があります。又、必要に応じて介護計画についての、検討を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて対応を行っています。日々柔軟な支援や状況に応じてのサービスに取り組んでいます。また夜間ケアの導入により、夜間時でも、より細やかな対応が出来るよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源についての十分な把握に努めている。火災訓練時には地域町内会の協力を仰いだり、ボランティアなどの支援をしてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診については、入居以前からかかれていた病院を、入居後も継続して関係が引き続き築いていけるように、支援を行っています。	約8割の利用者が協力医の往診を受け、その他、内科以外の通院を事業所で支援している。受診内容を通院記録に記載し、看護師は別途、看護記録を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえでユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師との連絡調整を密接に行っており、本人の体調の変化に注意し報告を行い、助言等を頂いて支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が安心して入院し適切な治療が受けられるように入院する際には、ホームから情報提供書を提出しております。又、早期に退院できるようホームからも出来る限りの協力をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、ご家族の方と出来る限り早期に話し合いを持つようになっています。医療面やご家族の方の協力等全ての面において、態勢が整った場合にチームとして支援に取り組み、出来る限りご本人、ご家族の希望に添えるよう対処しています。	利用開始時に「終末期生活支援に関する覚書」を説明し、取り交わしている。過去5年間で8件の看取りを経験し、医療機関との協力体制や職員の心構え、方針の共有ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に普通救命講習を全てのスタッフが講習を受けるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練では、地域の町内会の方にも参加して頂き、避難誘導等を一緒に行うようになっています。又、2回の避難訓練では昼間の体制での訓練と夜間の体制での訓練を毎年行っています。	年2回、消防や地域住民の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、災害時に必要な備蓄品も準備している。一方、最近では救急救命訓練講習の定期的な受講ができておらず、地震対応の話し合いも十分といえない。	全職員が3年に1回程度、救急救命訓練講習を受講できるよう、計画的な取り組みを期待したい。また、地震発生時の対応について、職員間で確認しておくことを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全スタッフは、一人ひとりの人格を尊重し、その方の誇りやプライバシーを損ねないように対応や言葉使いに常に注意をはらっています。	利用者は、苗字に「さん」づけで呼びかけている。管理者は、研修で行動を抑制する言葉遣いや周りの利用者が不快に感じる声かけをしないように指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、各入居者の方の思いや希望を表わせるように働きかけ、自己決定を促しています。難しいときは、選択肢を準備し選んで頂けるようにして自己決定出来る様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側の都合で物事が進まないように、その方のペースを大切にし、出来る限り希望にそって支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが、出来るよう支援しています。理美容師も定期的に入ってもらっています。		

グループホーム フォレスト柏木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえでユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、入居者の方に食べたい物等意見を聞くなど行い、希望に添えるように務めている。準備や後片付けなどを各入居者の方の能力に合わせて一緒に行っています。	給食係の職員が献立を作成している。誕生日に握り寿司にしたり、祝日はちらし寿司や赤飯にしてお祝いしている。季節に応じて庭で流しソーメンをしたり、お花見をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量については、1日を通じて確保できるよう支援を行っている。また摂取しやすい様に調理や食器などに工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り各入居者の方には口腔ケアを行って頂き、誤嚥性肺炎の予防や口臭や汚れが生じないようにしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握を行い、適切にトイレでの排泄が出来るように自立にむけた支援を行っています。夜間時のトイレも安全に行えるよう夜間ケアを導入し、支援しています。	自立している利用者も数人いるが、全員の排泄を記録して利用者の状況に応じて歩行器や車いす、手引き歩行でトイレでの排泄を支援している。身体状況に応じて、ベッド上で排泄用品を交換することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全てのスタッフが、便秘による影響を理解しており、排便の有無を把握し、便秘の時は便秘が解消されるように水分摂取や運動等を促しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を行って頂くようにしており、入浴時間についても、出来る限りご本人の希望に合わせています。	毎日入浴が可能で、10時～15時ごろの時間帯で一人週2～3回の入浴を支援している。利用者の意向に沿ってシャワー浴や同性介助など、安心して入浴が楽しめるように配慮している。入浴剤を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯などを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて、休息をして頂いたり、安心して気持ち良く眠れるように日々支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の方の薬の処方について、全てのスタッフが目的・用法・用量について理解しております。副作用については、薬局より薬の処方の用紙が配布されますので、その用紙を随時確認できるよう、設置場所をスタッフが把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時にご家族様や出来る範囲でご本人様に確認しております。日々時間を見ながら、出来る範囲で支援を行っています。		

グループホーム フォレスト柏木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえでユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回程度、ぶどう狩やさくらんぼ狩や紅葉を見に行く等普段行けないような場所への支援は行っています。又、出来る範囲でご本人様の希望を尊重し、外出の機会を作っています。昨年はコロナ禍の為外出は減っています。	ウッドデッキで日光浴をしたり、畑の作物の生育状況などを見ながら庭先を散歩している。桜並木をドライブしたり、おやつを買いに行くこともある。、感染症流行前は、外出行事で壮警方面への果物狩りや昭和新山に出かけたり、個別支援で外食会にも出かけていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフは、入居者の方がお金を持つ事の大切さを理解しています。しかし、その事で認知症の悪化の為、物取られ妄想等の症状が発生する場合がありますので、その際はご家族様と検討を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿うように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、入居者の方にとって不快や混乱をまねかないようにしています。温度、湿度等随時確認し快適な状態に保っています。	木の温もりが感じられる室内で、居間や食堂には大きな窓や天窓から明るい光が注いでいる。感染症対策に配慮して食卓やソファを配置し、落ち着いて過ごせるように工夫している。雛人形や手作りの雛飾り、利用者の絵手紙や書道などの作品が飾られている。靴箱は、本人の絵手紙作品で分かりやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームやリビング横の談話所など各入居者の方が色々な所でその時々状況に応じて、過ごせる場所があります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者される際には、契約時に出来る限り今日まで使い慣れた物を使用して頂くようにお伝えしています。ホームを自宅と思えるように、少しでも認識してもらえ、心地よく過ごして頂けるようにしています。	居室には、ベッドとクローゼットが備え付けられている。机や椅子、収納ケースなどを持ち込んでいる。好きな人形や小物類を傍に置いて落ち着いて過ごせるように工夫している。家族の写真や自分の作品を飾っている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の出来ることを把握し、出来ることやわかることを維持継続できるよう支援しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501107		
法人名	社会福祉法人 室蘭天照福祉会		
事業所名	グループホームフォレスト柏木 さくらユニット		
所在地	室蘭市柏木町45番10号		
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が喜んで頂ける様、行事や中レク(毎月の書道教室と絵手紙教室)等、家族の方に変わり、各入居者の方への支援を今後も今まで以上に、行い家族の方との協力のもと、支援をしていきたいと思ひます。又、生活する上で、スタッフ協力のもと、入居者の方の笑顔を引き出し、満足して頂ける様、日々の関わりを大事にし、コミュニケーションを交わし、職員の存在が、入居者の方にとって、家族の一部となって頂ける様支援していきたいと思ひます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0173501107-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくらユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、管理者と共に理念を読み上げ確認し、共有し、日々業務についています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議も地域の方の参加、避難訓練に参加して地域の方との交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に地域の方に説明などしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に職員も参加し、管理者共々サービス状況取り組みを報告し、話し合いを行っている。意見についても参考にしサービス向上に生かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事柄によって判断・指導を仰いでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員は、介護保険法指定基準を正しく理解し、常に身体拘束のないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議の中で、議題として取り上げ、その都度防止に努めています。		

グループホーム フォレスト柏木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくらユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方で制度を使う機会があり、学ぶ機会があった。必要とされる方に大いに支援をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時等の際は、説明や疑問点を確認し、お互いが理解納得出来る様行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方の意見・不満・苦情を聞く機会を設け、運営に反映しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議で意見や提案を話せる場を設けています。又、個別に管理者に伝える事もあります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格習得に対する応援や研修参加の機会を多く確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭グループホーム連絡会の研修や西胆振グループホーム連絡会に参加して、意見交換や悩みの相談など交流をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくらユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の方の信頼関係作りを各職員が工夫し、努力し、話を聞く機会を作り、受け止める様努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等、コミュニケーションを取り、聞く機会を作り受け止める努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方の要望や必要とされる支援を見極めて対応に努めます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の目線に合わせ、コミュニケーションを通し一緒に喜怒哀楽を共感し、支え合う関係作りを築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを取る努力を行い、共に共感し合いながら、支えていく関係作りを築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームとしては、出来る限りの支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には、入居者同士がぶつかり合う事はあるが、スタッフが間に入り、円満にいく様に努めています。又、入居者の方同士が関わり合える努力もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくらユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、お付き合いを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に聞き取り、把握に努めると共に、実施出来る様行っています。困難な場合は、話し合いを設け検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族の方に今までの生活歴を聞き取り、生活ライフが継続出来る様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りや声掛け、コミュニケーションを取る等の方法を使いながら、総合的に把握する様努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のユニット会議の中で、介護計画の見直しを行う際に、話し合いの場を設けています。必要になった場合は、関係者・家族の方にも意見を聞いています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の行動記録を毎日記入し、情報を共有する際は、連絡ノートを用意し、全スタッフが日々確認しています。又、プラン作成時にも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望を取り入れ、柔軟な支援を行います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週、ボランティアの方1名に来て頂き、2ヶ月に1度、運営推進会議に民生委員の方に来て頂いています。また、定期的に消防署の方・地域住民の方と共に避難訓練を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望を大切に、支援を行っています。		

グループホーム フォレスト柏木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくらユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが、近隣に看護師がおり、定期的に来て頂いています。又、必要とあらば、夜間等でも対応して頂き、密接に関係を築き、各入居者の方に向けた支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連帯しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階とはいえないが、各方面の関係者と共に話し合いを持ち、全員で方針の共有を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を定期的ではないが、日頃より看護師に助言や指導を頂いています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防の立会いのもと、地域の方に参加して頂き、避難訓練を行っています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心を大切にし、日々介護を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々入居者の方のペースを合わせ行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は、望まれる方には、支援していましたが、現在は、認知症の進行や要望がない為、ホームに理容・美容の方に来て頂いています。皆さん不満を持つ事なく利用しています。		

グループホーム フォレスト柏木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくらユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度の低下により、各入居者の方に無理強いする事なく、出来る範囲で一緒に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態に応じた支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の入居者の方に合わせた支援を行い排泄して頂いています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多目に摂って頂く、食事に繊維の多い野菜を取り入れる。日々の体操を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の入浴時間に合わせた支援を行っています。入浴中は時間の制限はしていません。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合った支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に注意しなければならない物については、理解している。又、薬の処方箋を直ぐに見られる場所に置き、その都度確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 書道教室や絵手紙教室、日常体操・カラオケや音張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道教室や絵手紙教室、日常体操・カラオケや音張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。		

グループホーム フォレスト柏木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくらユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日等声掛けを行い、戸外に出掛けられる様支援をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は認知症が進み管理出来る状態の入居者がいない為、全て金庫にて保管し限られたスタッフが管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じて対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は天窓より、光がかざし、丁度良い明るさとなり、浴室は昔ならではのタイル張りとし、懐かしく感じられる場所となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを広く取り、一人になれる空間や他入居者の方と一緒に過ごせる空間となっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族の方には、使い慣れた物を持って来て頂ける様、お話しをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の自立度を職員が把握し、出来る事の維持が継続様に日々支援をしています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム フォレスト柏木

作成日：令和 3年 4月 2日

市町村受理日：令和 3年 4月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束廃止委員会を2ヶ月に一度行っているが、毎月行っている各ユニットのユニット会議の中で行っており、身体拘束廃止委員会の議事録や資料、勉強会等の書類がまとまっていない。	身体拘束廃止委員会の活動内容が、議事録や資料、勉強会等の書類から明確になるようにする。	身体拘束廃止委員会とユニット会議の議事録や資料、勉強会等の書類を分けて、整理・保管する。	1年
2	23	入居者様の状態や暮らし方への希望を随時、アセスメントしているが、入居者様の趣味や趣向、生活歴などに情報収集が足りない項目がある。	入居者様の状態や暮らし方への希望、趣味趣向、生活歴を的確にアセスメントする。	センター方式シートを活用し、入居者様のアセスメントに足りない情報を収集する。また、生活歴の様式を改めて作成する。	1年
3	35	救急救命講習に職員が数年受講していない。火災を想定した避難訓練は行われているが、地震を想定した避難訓練は行われておらず、職員間で話し合いをする必要がある。	職員が救急救命講習に参加できる機会を作る。避難訓練では、さまざま災害を想定し、訓練を行う。	救急救命講習については、未経験の職員を優先し、全ての職員が定期的受講できる環境をつくる。災害対策では、火災以外にも地震や風雪害、停電などを想定し計画する。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。